

(4) 経済的な状況について

ア 年間の収入状況

母子家庭では、同居親族を含む自身の世帯の年間総収入は「200～250 万円未満」が 10.2%で最も多く、各項目を代表値に変換して算出した平均額は 290.8 万円となっています。

そのうち、自身の年間総収入では「100～150 万円未満」が 13.0%で最も多く、平均額は 240.7 万円となっており、自身の年間就労収入でも「100～150 万円未満」が 12.7%で最も多く、平均額は 229.2 万円となっています。

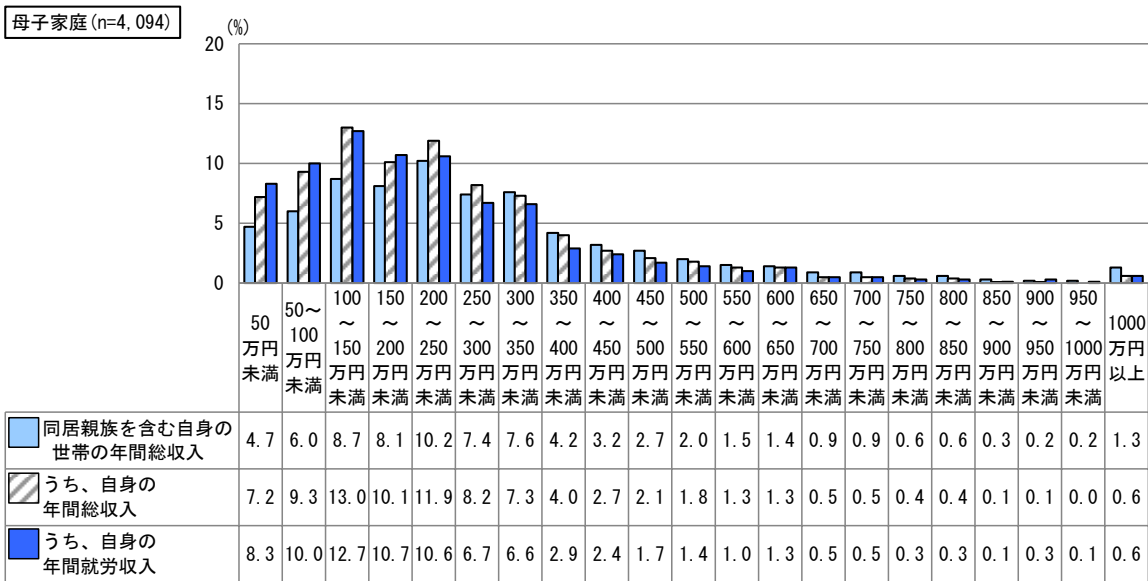
父子家庭の年間の収入状況については、同居親族を含む自身の世帯の年間総収入では「400～450 万円未満」と「500～550 万円未満」が同率で 6.9%と最も多く、各項目を代表値に変換して算出した平均額は 486.5 万円となっています。

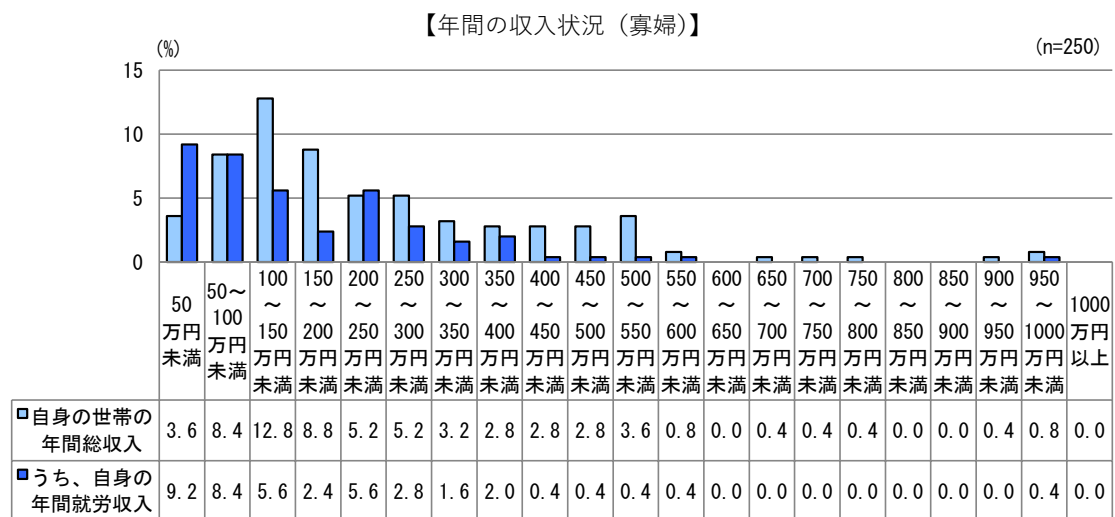
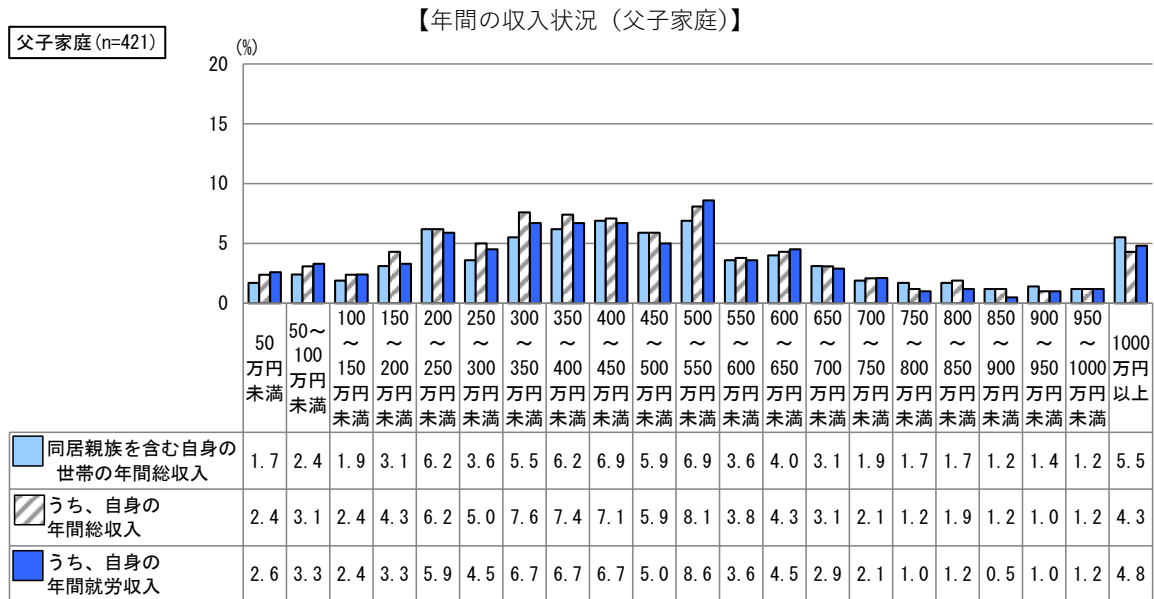
そのうち、自身の年間総収入では「500～550 万円未満」が 8.1%で最も多く、平均額は 454.0 万円となっており、自身の年間就労収入でも「500～550 万円未満」が 8.6%で最も多く、平均額は 454.1 万円となっています。

寡婦の年間の収入状況については、自身の世帯の年間総収入では「100～150 万円未満」が 12.8%で最も多く、各項目を代表値に変換して算出した平均額は 247.4 万円となっています。

そのうち、自身の年間就労収入では「50 万円未満」が 9.2%で最も多く、平均額は 163.3 万円となっています。

【図 4-2-1 年間の収入状況（母子家庭）】





[参考：各項目の代表値]

選択肢	代表値 (万円)	選択肢	代表値 (万円)
50万円未満	25	550～600万円未満	575
50～100万円未満	75	600～650万円未満	625
100～150万円未満	125	650～700万円未満	675
150～200万円未満	175	700～750万円未満	725
200～250万円未満	225	750～800万円未満	775
250～300万円未満	275	800～850万円未満	825
300～350万円未満	325	850～900万円未満	875
350～400万円未満	375	900～950万円未満	925
400～450万円未満	425	950～1,000万円未満	975
450～500万円未満	475	1,000万円以上	1025
500～550万円未満	525		

イ 主な属性別 自身の年間総収入の平均値

【主な属性別 代表値による算出の自身の年間総収入の平均値（母子家庭）】

母子家庭全体：240.7万円					
母親の年齢別	16～19歳	25.0 万円	母親の最終学歴別	中学校	156.4 万円
	20～24歳	114.0 万円		高等学校	209.3 万円
	25～29歳	158.4 万円		短大・専修学校（専門課程）	260.8 万円
	30～34歳	196.8 万円		大学	354.1 万円
	35～39歳	232.7 万円		その他	301.1 万円
	40～44歳	257.8 万円	現在の就業形態別	正社員・正規職員	357.8 万円
	45～49歳	263.5 万円		パート・アルバイト・臨時職員	156.3 万円
	50～54歳	266.5 万円		派遣社員	217.0 万円
	55～59歳	256.1 万円		自営業主	307.4 万円
	60歳以上	190.0 万円		自営業の手伝い（家族従事者）	196.4 万円
期間別	1年未満	189.4 万円		家庭で内職・在宅ワーク	138.0 万円
	1年	203.9 万円		無職（専業主婦を含む）	95.8 万円
	2年	219.1 万円		その他	194.8 万円
	3年	252.2 万円	現在の職種別	専門知識・資格・技術をいかした仕事	341.0 万円
	4年	233.7 万円		管理的な仕事	441.9 万円
	5年	254.4 万円		事務的な仕事	271.0 万円
	6～10年	255.1 万円		営業・販売の仕事	224.4 万円
	11～20年	261.0 万円		サービスの仕事	178.8 万円
21～30年	246.4 万円	運輸・通信の仕事		201.7 万円	
なつたり理親家庭に別	死別	265.0 万円		製造・技能・労務の仕事	178.8 万円
	離別	239.2 万円		その他	241.3 万円
	未婚・非婚	232.3 万円			
	その他	244.8 万円			

※回答者のみの平均額とする。

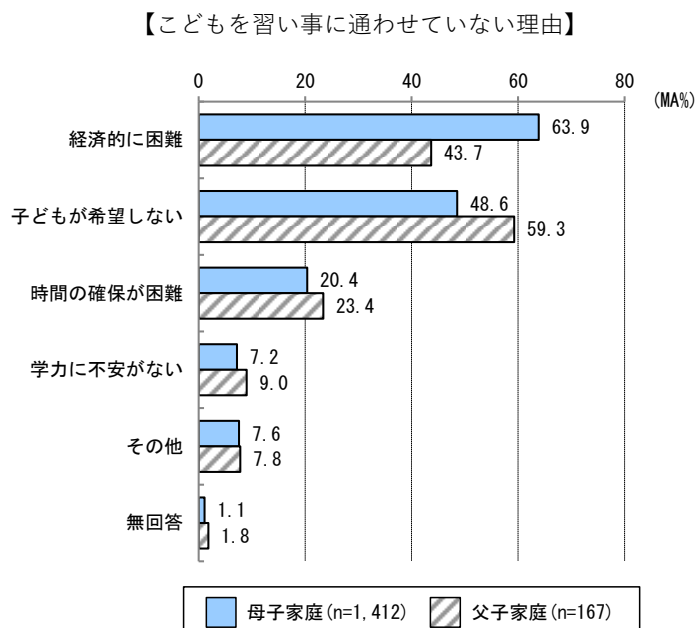
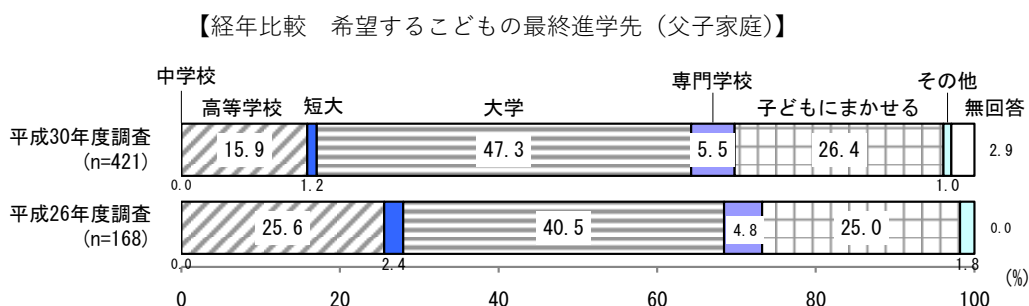
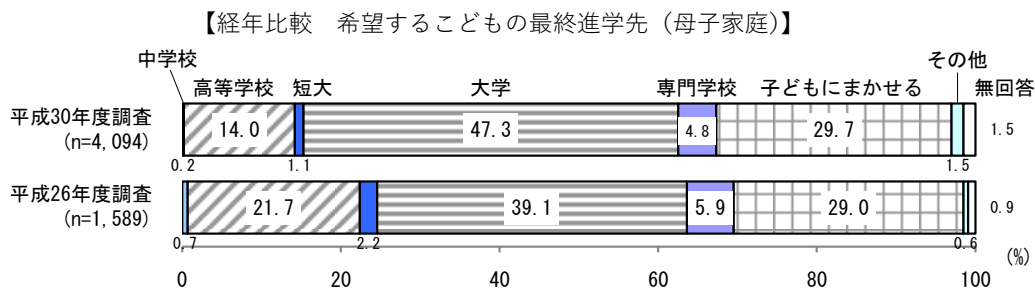
ウ 希望するこどもの最終進学先とこどもを習い事に通わせていない理由

母子家庭、父子家庭とも「大学」が最も多く、次いで「こどもにまかせる」、「高等学校」となっています。

平成26年度調査と比較すると、「大学」が増加しており、「高等学校」が減少しています。

一方、こどもを習い事に通わせていない理由について、母子家庭では「経済的に困難」が63.9%で最も多く、父子家庭の43.7%に比べて20.2ポイント高い割合となっています。

父子家庭では「こどもが希望しない」が59.3%で最も多くなっています。



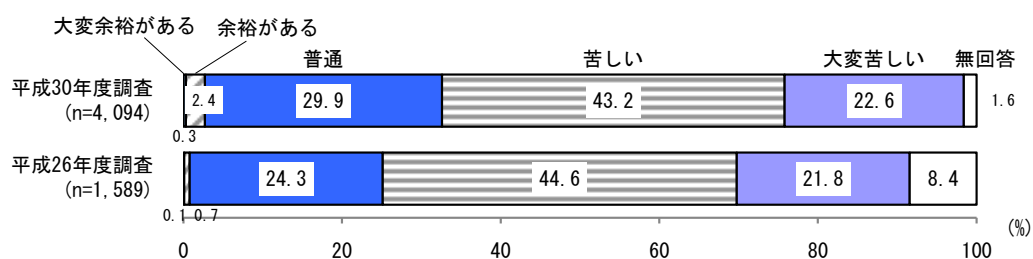
エ 現在の生活の状況

母子家庭では「苦しい」が43.2%で最も多く、「大変苦しい」と合わせると65.8%となっています。

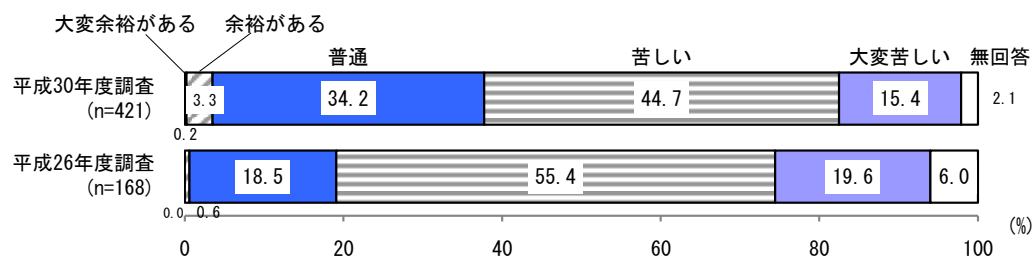
父子家庭では、「苦しい」が44.7%で最も多く、「大変苦しい」と合わせると60.1%となっています。

母子家庭では、「ひとり親家庭になったときに困ったこと」及び「現在困っていること」について、「経済的に困った」という回答が最多となっており、経済的支援はひとり親家庭の生活のために大変重要な支援です。

【経年比較 現在の生活の状況（母子家庭）】



【経年比較 現在の生活の状況（父子家庭）】



(5) サポート体制について

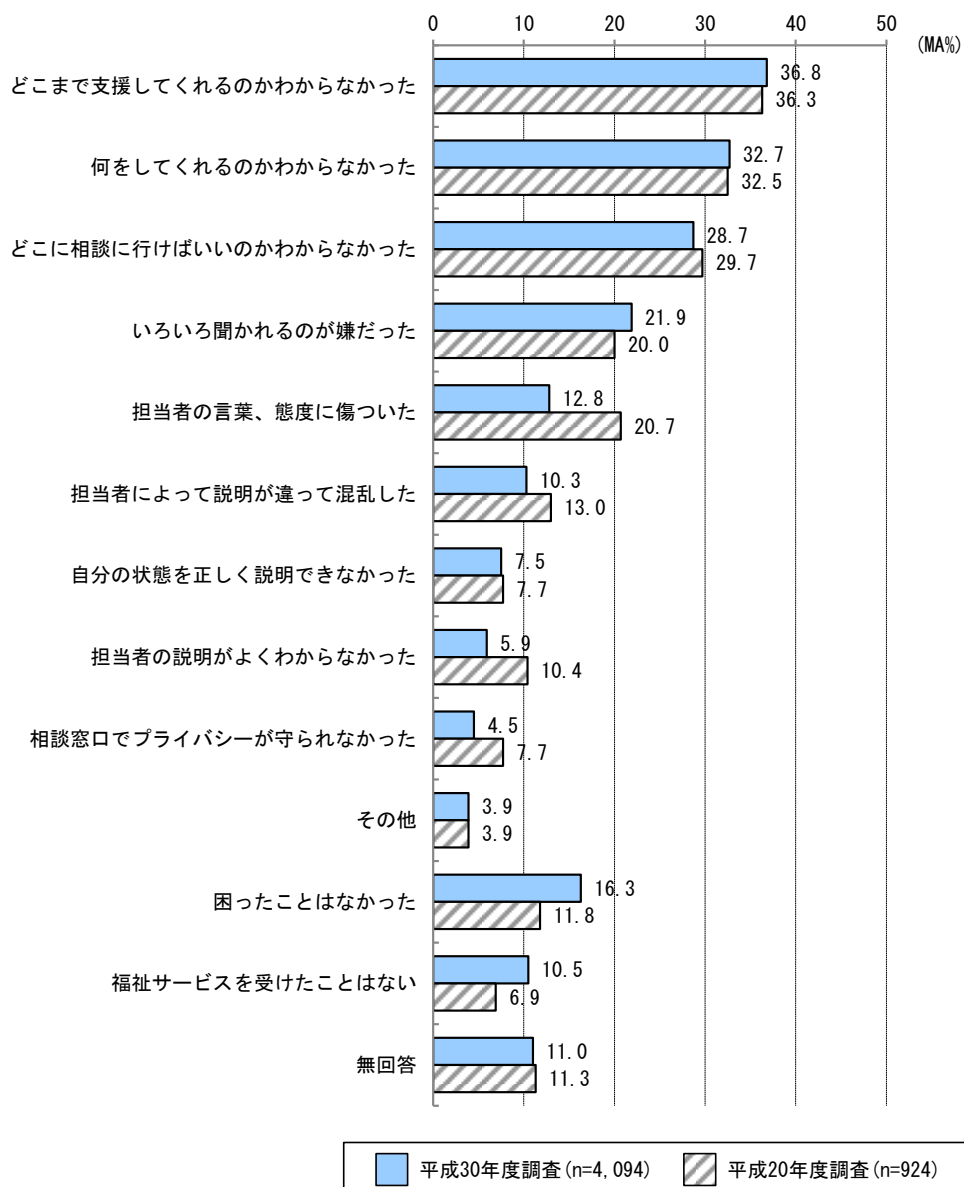
ア 福祉サービスを受けるときに困ったこと

母子家庭では、「どこまで支援してくれるのかわからなかった」、「何をしてくれるのかわからなかった」、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」が上位3項目に挙がっており、福祉サービスの周知度の低さがうかがえます。

また、福祉サービスを受けるときに不満だった内容として、「いろいろ聞かれるのが嫌だった」が21.9%と多くなっています。

一方、平成20年度調査と比較すると、「担当者の言葉、態度に傷ついた」は7.9ポイント、「担当者の説明がよくわからなかった」は4.5ポイント減少しています。

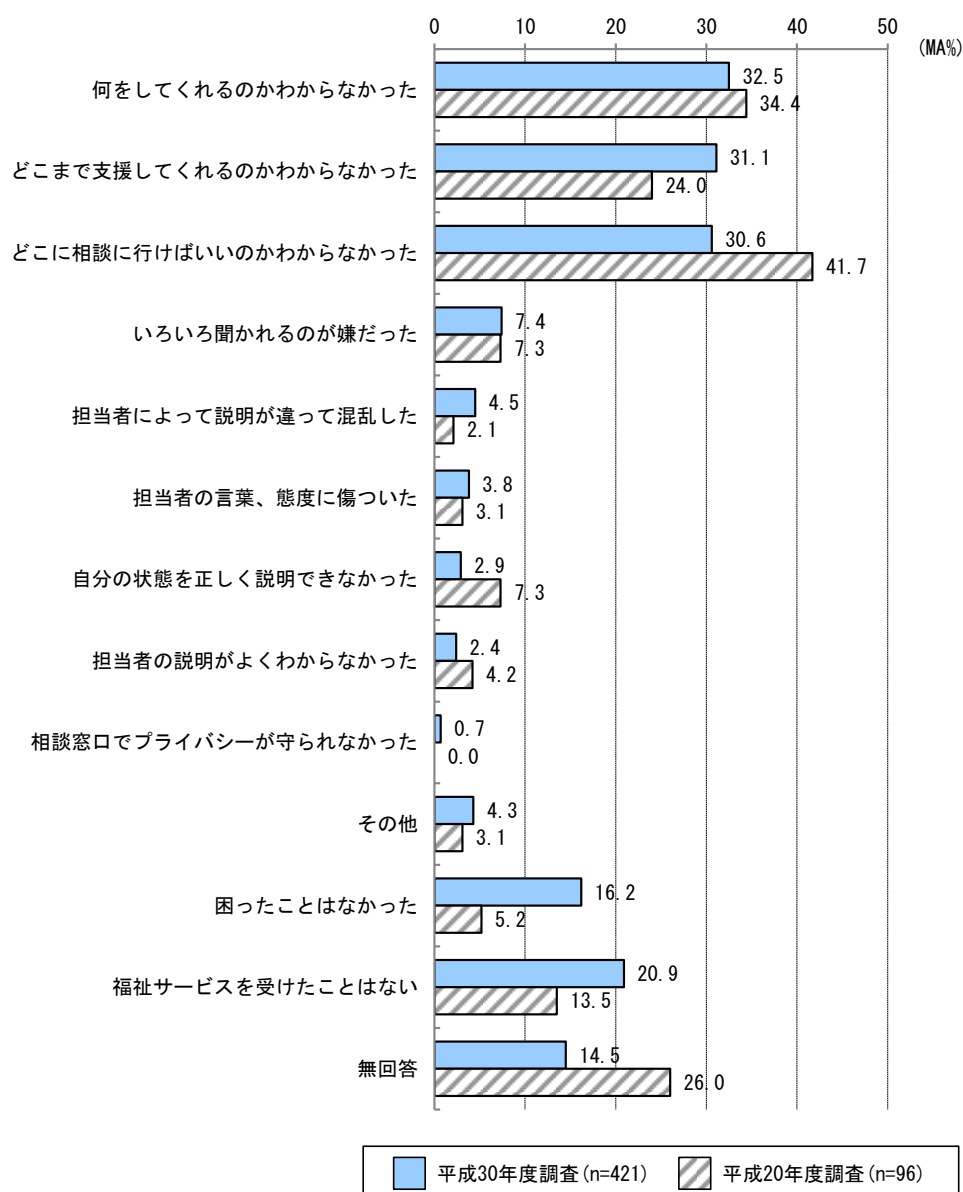
【経年比較 福祉サービスを受けるときに困ったこと（母子家庭）】



父子家庭でも「何をしてくれるのかわからなかった」、「どこまで支援してくれるのかわからなかった」、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」が上位3項目に挙がっており、福祉サービスの周知度の低さがうかがえます。これに続いて「福祉サービスを受けたことはない」が20.9%と多くなっています。

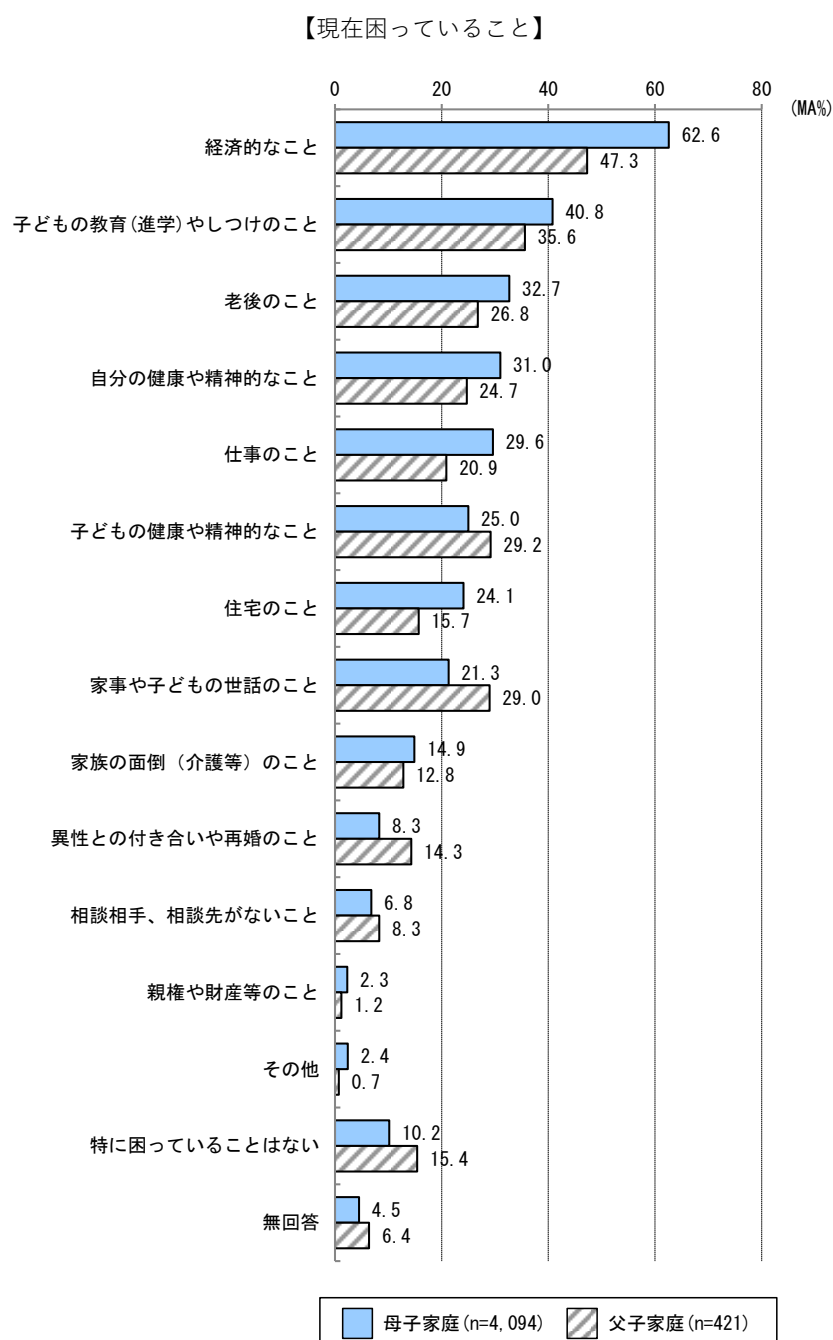
平成20年度調査と比較すると、「困ったことはなかった」が11.0ポイント、「福祉サービスを受けたことはない」が7.4ポイント、「どこまで支援してくれるのかわからなかった」が7.1ポイント増加しており、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」は11.1ポイント減少しています。

【経年比較 福祉サービスを受けるときに困ったこと（父子家庭）】



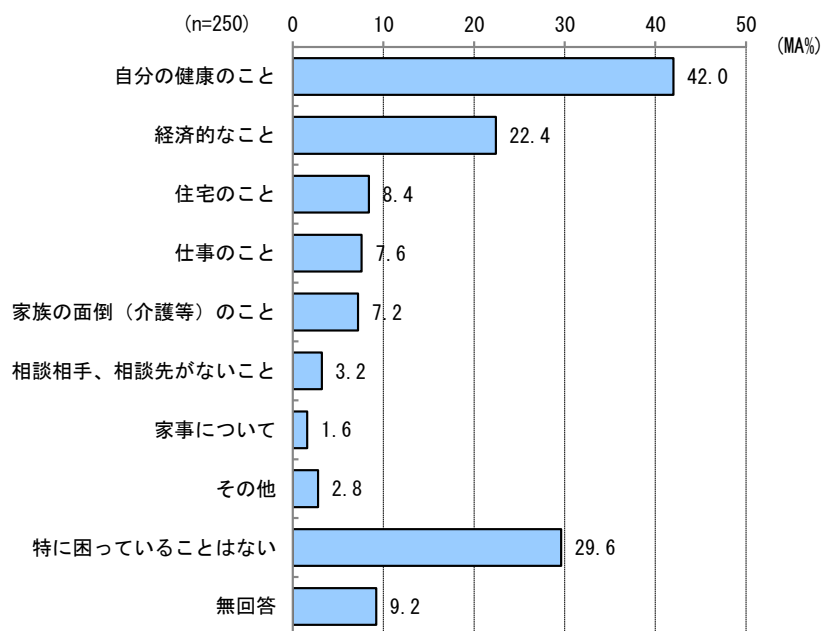
イ 現在困っていること

母子家庭・父子家庭とも「経済的なこと」が最も多く、母子家庭は 62.6%、父子家庭は 47.3%で、母子家庭のほうが 15.3 ポイント高い割合になっています。これに次いで「こどもの教育（進学）やしつけのこと」が母子家庭で 40.8%、父子家庭で 35.6%となっており、続けて母子家庭は「老後のこと」（32.7%）、「自分の健康や精神的なこと」（31.0%）が多く、父子家庭は「こどもの健康や精神的なこと」（29.2%）、「家事やこどもの世話のこと」（29.0%）が多くなっています。



寡婦について、現在困っていることについて、「自分の健康のこと」が42.0%で最も多く、次いで「経済的なこと」が22.4%、「住宅のこと」が8.4%となっています。

【図 5-2 現在困っていること（寡婦）】



ウ 困ったときの相談先

母子家庭・父子家庭とも「親族」が最も多く、母子家庭は68.2%、父子家庭は63.2%となっています。これに次いで「友人、知人」が、母子家庭は66.1%、父子家庭は41.1%となっています。

困ったときに相談する相手として、「親族」「友人・知人」の割合が高いですが、「公的機関」の割合が低く、「相手がいない」は母子家庭に比べ父子家庭は高くなっています。

ひとり親家庭等が困ったときに気軽に相談できる場として認知されるよう、各種制度・相談窓口の広報周知を引き続き行うことが必要です。

寡婦については、「親族」が71.6%で最も多く、次いで「友人、知人」が31.2%、「公的機関」が12.8%となっています。

